

都市再生整備計画(第5回変更)

おおのきたちく
大野北地区

かながわけん さがみはらし
神奈川県 相模原市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	相模原市	地区名	大野北地区	面積	419 ha
計画期間	平成 7 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標
大目標: 市民と学生の交流や交通改善による地域活性化と文化と教育の織り成すまちの創造
目標1: 駅のバリアフリー化や違法駐輪対策による、駅周辺における利便性の向上を図る。
目標2: 地域資源である学生との協働によるまちづくりの推進による商店街の活性化を図る。
目標3: 街路の整備やゆとりある歩道の整備などによる地区住民の住環境の向上を図る。

現状 平成22年3月
まちづくりの経緯及び現況

- ・当地区は、横浜線沿線の淵野辺駅周辺を中心に都心部への通勤通学の利便性の高い立地であることから、大規模マンション等の開発が進められ、市内において人口の増加が見込まれている地域となっている。
- ・麻布大学や相模原市立図書館など古くから市内における文教地区として発展してきたことに加え、平成15年に青山学院大学、桜美林大学ステーションキャンパスが開学するなど、多くの若者が集うまちである。
- ・平成8年に淵野辺駅前へ国際交流ラウンジが開設され、学生だけでなく外国籍市民などを中心に国際的な文化交流について市民活動が活発に行われている。
- ・昭和62年に駅周辺の36.1haを商業地形成事業区域として定めるとともに、商業活性化事業などにより商店街の活性化に向けた取り組みが行われているが、近年の大規模店舗の郊外立地になどにより、駅前などの商店街は沈滞化傾向にある。
- ・相模原市内の横浜線で唯一バリアフリー化が行われていない矢部駅のバリアフリー化についての検討だけでなく、矢部駅を中心としたまちづくりを目的に市民参加による「矢部駅まちづくり検討会」が発足するなどまちづくりへの気運が高まっている。
- ・駅周辺の自転車駐車場は、どの施設も稼働率が飽和状態であり、違法駐輪自転車等が歩行者交通の障害となっている。

課題
駅周辺における歩行者の安全性の向上と沈滞化した商業地の活性化が課題である

- ・駅のバリアフリー化等により、駅利用者の安全性、利便性の向上を図る必要がある。
- ・周辺への大型店の出店などにより、地域の小売業が伸び悩んでおり商店街の活性化が必要となり、基盤施設の整備だけでなく近隣学生の活動の場の提供や学生と商店街の融合によるまちづくりが必要である。
- ・地区住民の増加に伴う交通渋滞の緩和に向けた、都市基盤の整備が必要である。
- ・駅周辺の放置自転車が増加傾向にあり、歩行者の利便性と安全性の向上を図るため駐輪場対策が課題である。

将来ビジョン(中長期)
大学などの人や知恵を資源とし、「文化と教育を活かした若者の集うまち」の創造により、地区商業市街地としてのまちの再生を目指す

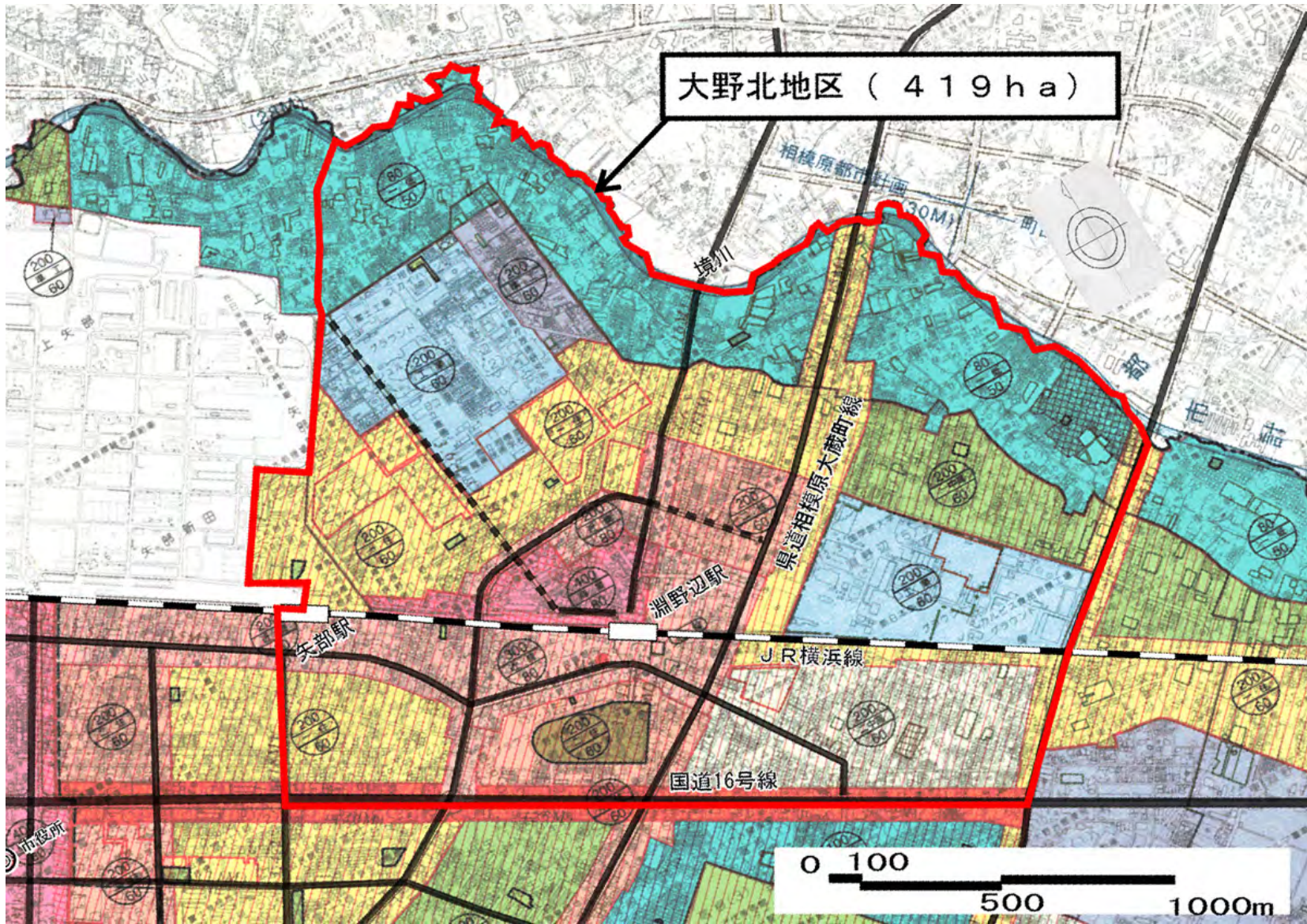
- ・相模原市総合計画においては、交通混雑の解消や歩行者の安全確保とともに、商業については、周辺地域への大型店の出店などにより、地域の小売業が伸び悩むなどの問題を抱えており、文教地区としての特色を生かした整備に努めるなど、若者が魅力を感じる活気あるまちづくりへの取り組みが位置付けられている。
- ・都市計画マスタープランでは、淵野辺駅周辺において商業、教育、文化機能の集積により、地域の交流の場として充実していくこととしての位置付けられている。
- ・都市計画マスタープランでは、JR横浜線、国道16号線を広域交流軸として位置付けるとともに、都市基盤の整備や公共交通の充実など利便性を高めることと位置付けられている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1.主要駅の乗降客数	人/年	「矢部駅」「淵野辺駅」における乗降客数	駅の利便性を高めることにより地区内の公共交通利用者の5%増を見込む。	80,420	16	84,400	22
2.商店街の来街者数	人/年	商業統計による地区内商店街に来街する人数	地区の商店街の活性化と回遊性の向上により、商店街への来街者の6%増を見込む。	30,400	16	32,300	22
3.地区内定住人口	人	地区内の人口	交通不便の解消や歩道空間の確保などゆとりある住環境の確保により、3%の人口増加を見込む。	44,000	16	45,300	22
4.まちづくり市民活動開催回数	回/年	矢部駅周辺まちづくりを考える会の開催回数	まちづくりへの参加意欲の高まりにより、従来より、70%の増加を見込む。	7	16	12	22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(駅周辺の安全性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者の安全性と利便性の向上を図るため、市内において横浜線の駅で唯一バリアフリー化されていない矢部駅のバリアフリー化をおこなう。 ・違法駐輪車による歩道空間の障害に対し、駅周辺の歩行者の安全性の向上を図るため、駅に隣接し、現在、利用状況が飽和状態となっている自転車駐車場の設置台数の増加と、女性・子供・老人等にとって利便性の向上が図られる自転車を駐車する施設の変更を行う。 ・矢部駅の南北のまちの均衡ある発展を図り、歩行者や自転車利用者の安全な横断と利便性を確保するため、現在の踏切を廃止し、立体横断施設の整備を行う。 	<p>高質空間形成施設(基幹事業/矢部駅自由通路等整備、市)、高次都市施設(基幹事業・関連事業/矢部立体横断施設整備、市)、地域生活基盤施設(基幹事業/自転車駐車場改良、市)、地域創造支援事業(提案事業/自転車駐車場再整備、市)、駅舎改修(関連事業/矢部駅、淵野辺駅駅舎改修及びバリアフリー化、JR)、駅前広場整備(関連事業/淵野辺駅北口、淵野辺駅ペDESTリアンデッキ、市)</p>
<p>整備方針2(駅周辺利用者の安全性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加しつつある駅利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、街路灯の設置、車両の一方通行化を伴う駅周辺の道路整備を行う。 	<p>まちづくり活動支援(提案事業/市民の会活動支援、市)、空き店舗活用(関連事業/市)、商店街活性化(関連事業/市)、交流施設整備(関連事業/市)、教育施設(関連事業/青山学院、桜美林大学)、地域イベント(関連事業/銀河祭り、民間)道路(基幹事業/通学路路側帯明色舗装工事、市)</p>
<p>整備方針3(街路整備等による住環境の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路の整備による駅へのアクセス性の向上を図る。 ・ゆとりある歩行者空間の確保による地区住民の安全性、利便性の向上を図る。 	<p>道路事業(基幹事業/矢部1号道路改良、下九沢淵野辺、市)、地域創造支援事業(提案事業/街路樹適正配置、市)、道路事業(関連事業/淵野辺駅境橋道路改良、下九沢淵野辺道路改良、嶽之内当麻道路改良、市/淵野辺停車場道路改良、県)、高質空間形成施設(基幹事業/淵野辺跨線橋斜路改修事業、市)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的な地域のまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・当地区においては、地区の計画的なまちづくりを目指し、地元商店街や自治会が中心になって「矢部駅及び矢部駅周辺整備に関する市民の会」が組織されており、活発に活動が続けられている。 ○ 文教地区としてのまちの顔づくり <ul style="list-style-type: none"> ・当地区においては、市立図書館、国際交流ラウンジ等の開設に加え、平成15年に青山学院大学、桜美林大学ステーションキャンパスが開学するなど、文教地区としての集積が進んでいる。 ・当地区については、平成15年の大学の開設に伴い、淵野辺駅の駅舎のバリアフリー化、自由通路の整備、北口駅前広場の整備を行い、まちの顔づくりを進めている。 ○ 地区中心市街地としての道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・当地区においては、地区中心市街地としての人の集積と賑わいを推進するため、淵野辺駅停車場線、嶽之内当麻線等駅につながる幹線道路の整備を行っている。 	



大野北地区(神奈川県相模原市) 整備方針概要図

目標	市民と学生の交流や交通改善による地域活性化と文化と教育の織り成すまちの創造	代表的な指標	主要駅の乗降客数 (人/年)	80,420 (16年度)	→	84,400 (22年度)
			商店街の来街者数 (人/年)	30,400 (16年度)	→	32,000 (22年度)
			地区内定住人口 (人)	44,000 (16年度)	→	45,300 (22年度)

